



二中だより

さとく うつくしく たくましく

天童市立第二中学校だより 第9号

令和6年12月20日 文責：校長 鎌田さとみ

挑戦し続けたことで、一人一人が確実に成長を遂げた2学期になりました。

校長の話より (抜粋)

2学期は、様々なことがありましたが、私が特に印象に残っているのは、「合唱コンクール」での皆さんの姿です。全校合唱「未来へ」の練習を始めたばかりの頃はその様子を見て、このままで大丈夫なのかな、二中生ってこんなものなのかなと、正直非常に心配になりました。

しかし、みなさんは、クラスの仲間のため、自分のため、挑戦し続けました。だからこそ、私は合唱コンクール本番で、一生懸命練習した成果を見せてくれたみなさんの歌声に心が震えたのだと思います。嬉しかったです。2年生の実行委員のひとりの〇〇〇〇さんが、こんなふうに綴っていました。「誰一人弱音を吐かず意見を出し合った期間は本当にかげがえのない期間でした」と。合唱コンクールを通して、挑戦し続けたことで得られた結果だなどと感動しました。

また、2学期は合唱コンクールの他にも、挑戦し続けた皆さんの姿が様々ありました。1、2年生の新人大会もそうです、生徒会役員改選の選挙もそうです、3年生の実力テストもそうです。もしかすると何事も努力したものの思った通りにならなかった、うまくいかなかったと感じている人がいるかもしれません。しかし、大事なのはそこであきらめてやめるのではなく、やり方や取り組みを見直したり、自分自身の気持ちなどを入れ替えたりして、また挑戦し続けることが重要なのではないのでしょうか。

アメリカのプロバスケットボールリーグで活躍中の河村勇輝選手を知っていると思いますが、NBAで最も小さい173センチの挑戦に、『無理』という声も聞かれますが、彼は意に介しません。河村選手の言葉です。「『無理』という言葉がわかりません。今の自分の力では、現実味がないと思ったことは何度もあります。数年後、自分が積み上げていけば、その場に立てるかもしれない。今の自分が持っているスピードやクイックネス、アシストの能力。努力の方向性をまちがわなければ、必ず同等に戦えるようになる」と信じている。まだ、現段階ではNBAで戦えない部分が多い。だからこそ楽しい。ここからが勝負、ここからが一番大事だと思っている。」この言葉から、私は人はどんな状態におかれても「挑戦し続けること」で成長できるし、「挑戦し続けること」で未来をそして自分自身を変えていけると思いました。

様々な挑戦をし続けた皆さんにとって、本当に実り多き2学期になりました。自らの取り組みを振り

返り、これからもぜひ挑戦し続けていきたいと思います。



★植栽活動

今年も、更生保護司会から花を寄贈していただきました。寒い日でしたが、更生保護司会・女性会の方々と2年生の新執行委員の生徒と一緒に「プランター」に寄せ植えを行いました。翌日から昇降口に飾っています。ご寄付そしてご協力ありがとうございました。



★駅伝結団式

来年4月に行われる地区駅伝大会に向けて、結団式が11日に行われました。メンバーは男子22名、女子5名です。男子主将の〇〇〇〇さんと、女子主将の〇〇〇〇さんからは、力強い決意表明がありました。早速13日の清掃時間帯から練習が始まっています。これから厳しい冬の練習がありますが、選手の皆さんには学校の代表として、それを乗り越え、春には一回り成長した姿を期待しています。4月、NDスタジアムでの全校応援が楽しみです。



★吹奏楽部 アンサンブルコンテスト壮行演奏会

吹奏楽部が来たる12月21日、山形テルサを会場に行われる第51回村山地区アンサンブルコンテストに「管打6重奏」で出場します。演奏を聞いた後、新応援団長を中心に全校生で激励応援をしました。少人数の演奏で一人一人の役割が一層大事になりますが、吹奏楽部の皆さんには精一杯、頑張ってきてほしいです。



保護者・地域の皆様、2学期81日間、いつも温かく生徒を見守り、本校にご支援・ご協力をいただきまして、大変ありがとうございました。また、2024年も大変お世話になりました。今後とも変わらぬご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。